

画像診断臨床応用

Clinical Application of Imaging Diagnosis

コース責任者

放射線医学教授 三村 秀文

1. 学習目標

1) 一般目標 (G I O)

画像診断に必要な解剖、放射線の性質と応用原理、医療被ばくとその軽減対策について理解する。超音波、CT、MRI、核医学装置の原理とそれらから得られた画像情報の解釈ができるようにする。さらに、これらの画像情報を総合的に判断し疾病の診断ができるようにする。また、放射線治療やIVRを理解し説明できるようにする。

2) 行動目標 (S B O)

[放射線基礎医学・放射線安全管理]

放射線の種類および性質について述べるができる。さらに、この観点から診断、核医学および治療機器の原理を説明できる。また、医療被曝と職業被曝およびその防護について説明できる。

[単純撮影およびX線CT、磁気共鳴画像診断]

各診断装置の特徴について説明できる。また、各診断法による画像の正常解剖を説明でき、異常所見を拾い上げて表現できる。

[核医学]

核医学検査の特徴および特殊性を述べるができる。核医学検査での臓器機能の情報と病態との関係を説明できる。

[インターベンショナルラジオロジー]

基本的な治療原理・方法を述べるができる。他の治療との違いについて説明でき、その適応について述べることができる。

[放射線治療]

主な悪性腫瘍の特徴および放射線治療効果について述べることができる。また手術や化学療法など他治療手段と対比した最適な治療法を述べることができる。

[超音波診断]

超音波診断装置の原理を理解し、施行可能な部位・条件並びに正常像、異常所見を述べることができる。さらに観察できた臓器の形態、動態およびドップラー法について説明できる。

2. 学習内容

1) 総論

放射線、超音波などの医療への応用について理解でき、臨床に用いられているX線検査、超音波検査、核医学検査、磁気共鳴検査で得られた画像を学習する。放射線を用いた治療や手技についても学ぶ。

2) 各 論

- ①総論で学んだ各種画像診断法を用いて領域毎に各疾患の特徴を理解する。
- ②総論で学んだ I V R 及び放射線治療の実臨床での応用を領域毎に理解する。

3. 成績評価

1) 総括的評価

認知領域（知識）に関する評価は客観試験（多岐選択方法）及び論述試験で行う。
情意領域（態度・習慣）は出欠、学習中の態度を参考にする。

2) 形成的評価

随時アンケートや講義中の質問などにより評価するとともにその場で必要な学生にはフィードバックする。

下記の評価項目を総合して総括評価する。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	2	100(%)	前期・後期試験期間中に実施する。

4. 教科書・参考書

- 参考書 『標準放射線医学』医学書院
『症状から引く胸部画像診断』中山書店
『画像診断コンパクトナビ』医学教育出版
『救急当直に役立つ画像診断マニュアル』MED S I
『(改訂・増補版)放射線科医のものの見方・考え方』医療科学社

5. 準備学習

毎授業後には、放射線科・ホームページにアップされた講義資料にて復習すること。
(①大学案内 → ②講座研究施設 → ③放射線医学 → ④※学内専用ページ)

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
放射線医学	教授	三村 秀文	原則として月曜から金曜日までの9時～17時。 秘書からの連絡で対応する。	医学部本館4階 放射線科医局、教授室	3444 (内線)